

深く考え、実行する子ども	健康な子ども	○ 健康でたくましい身体 の鍛錬に努めること	明るく健康な子ども  体力のある子ども
	考える子ども	○ 自ら考える力を養い 創造的な知性と技能を 育てること。	進んで学習する子ども  正しい見方・考え方のできる子ども
	思いやりのある子ども	○ 自然愛や人間愛を大切に する豊かな情操を養うこと  ○ 家族、郷土、祖国を愛する と共に国際社会の中で信頼と 尊敬を得る日本人を育成 すること	工夫する子ども  ひとの身になって考える子ども  礼儀正しい子ども  美しいものを大切に する子ども
	努力する子ども	○ 強靱な意志力を養い 自律的な精神を養うこと	最後までやりぬく子ども  やくそくやきまりを守る子ども  責任を果たす子ども
	奉仕する子ども	○ 正しい勤労観を養うこと  ○ 社会連帯感や奉仕の精神に 基づく実践的社会的性を 培うこと	進んで働く子ども  協力する子ども  みんなのためにつくす子ども

(3) 各学年の到達のめやす設定のための調査

※ 調査対象 (1年～6年), 実施 (7～8月)

質問法 (紙) による

(2年生の例) 調査人員 182名 7月

質問の内容 (質問紙による)	よい		ふつう		わるい	
	人数	%	人数	%	人数	%
車に気を付けて、どう ろをあるきましたか	90	50	86	47	6	3
手をきれいに、あらい ましたか	133	74	41	23	6	3
元気に運動やあそびを しましたか	135	75	44	24	2	1
学習のきまりになれ、お ちついて学習しましたか	56	31	105	58	20	11
よい悪いのくべつがわか り、よいことを見つけた か	63	56	69	38	10	4
友だちと、なかよく遊 びましたか	102	36	107	60	7	6

<考察>

この調査は、低学年 (2年生) における学習や生活の意識についてその傾向をつかみ、学年到達のめやす設定の参考にする目的で実施した。

質問1 「車に気を付けて歩きましたか」については、50%がよいと答えており、ふつうと答えた者が47%、わるいが3%である。児童の生命安全を、おびやかす今日的な最大の課題は交通事故であり、約半数の児童は常に交通事故にあわないように気をつける習慣が身につけているようであるが、残る半数 (ふつう、わるい) は危険が潜在していると思われる。

児童の生命の安全確保および維持増進は、学校教育の基本であり最も重要な指導課題でもある。「車に気を付けてあるく」これは低学年、高学年の区別なく人間が生きていく上での一生涯の課題でもあり本校の教育目標の基本目標のひとつでもある「健康な子ども」を主軸とし、基本目標の三項目のひとつである「生命を大切に子ども」とは不離一体の関係にあり生活指標でもある。特に低学年においては道路歩行の基礎基本を確実に身につけるよう徹底した指導が望まれる。

質問4 「学習のきまりになれ、おちついて学習しましたか」については、よい31%、ふつう58%、わるい11%の結果がでた。このことは、総括目標の「深く考え実行する子ども」と深くかわり、基本目標の「考える子ども」とも密接な関連がある。約70%、約130名の児童は学習のしかたについて何らかの問題があり、本校の教育目標の設定および、「各学年到達のめやす」や具体的指導事項の設定上の重要な参考課題となった。

(4) 学年到達のめやす (試案) の設定

前年度までの到達のめやすは、やや具体性に欠けるという反省から、前述の教育目標に対する児童の意識調査をもとに、今年度の学年到達のめやすは、低・中・高の三段階とし、指導のめやすを学年の発達段階に応じてできるだけ具体的にした。

<低学年の例>

具体目標	到達のめやす
◎生命を尊ぶ子ども	◎車に気を付け道路の横断は左右をよくみて安全をたしかめてわることができる。
明るく健康な子ども	○いつも手足をきれいにしておく